

岡山県 新見・真庭地域

重点プロジェクト(8) 多品種でコンテナ苗が生産できる体制の整備

多品種コンテナ苗の生産体制調査

現状と課題

当地域では、拡大造林時に植えられた人工林の収穫や再造林が進まず、林級構成が50年生を超え利用期を迎えた森林が70%以上を占めており、林齢の平準化が課題となっている。また、木材価格の下落による採算性の悪化、森林所有者の高齢化や不在村化が進み、森林の管理水準が著しく低下する恐れがある。そのため将来にわたって循環利用できる持続可能な森林資源としての整備を進める必要がある。



図1 種子採取

取組概要

皆伐再造林や天然林の更新後の有用樹の植栽など、今後増加が見込まれる多品種の苗木をコンテナ苗として生産できる体制をつくるため、生産樹種の選定や生産コストの調査を実施した。



図2 播種の様子

取組の成果・効果

令和3年度では、岡山県内の苗木生産者での取り組みが少ない樹種の中から、生産樹種の選定を行い、6品種(オニグルミ、ユリノキ、フウ、イイギリ、センダン、メタセコイヤ)について調査することとした。真庭森林組合を委託業者とし、種子の採取、育成資材の確保を行い、100コンテナ(2,400本)の播種を行い生産コストを検証した。



図3 播種後

取組が進んだ要因

樹種の選定にあたり、真庭地域の気候にも適し、建築や家具材などへの利用を考慮したうえで、岡山県農林水産総合センター森林研究所のアドバイスを受けながら選定した。

また、苗木生産業者や樹木医からも指導、協力をいただくことで、樹種ごとの管理方法や必要資材などを把握することができた。



図4 発芽の様子

これから取組む地域へのアドバイス

地域の気候に適した樹種の選定が重要であり、また安定的な種子の確保が課題となるため、近辺で種子採取が可能な優良母樹の確保が求められる。令和3年度だけでは、十分な生育量の数字を得ることができなかったため、令和4年度も引き続き検証を行っている。

【担当】

真庭市役所産業観光部林業・バイオマス産業課
主査 中島 大輔

【連絡先】

メール: daisuke_nakashima@city.maniwa.lg.jp

電話: 0867-42-5022

URL: <https://www.city.maniwa.lg.jp/>